



2018年8月10日発行
 特定非営利活動法人
 盛岡YMCA
 〒020-0015
 盛岡市本町通3-1-1
 Tel 019-623-1575
 Fax 019-623-1579
 www.moriokaymca.org
 発行人/ 渡塚 有史
 編集/ 本部事務局

YMCA News 8.9



「キャンプだ!だって夏だもの!」

こんにちは、盛岡YMCAリーダーOBの葱です。私の時のキャンプですと、就学前、低学年の子たちのキャンプデビューのわんぱくキャンプ、サッカーに海にと遊んだサッカーキャンプ、海を満喫の海キャンプ!ほかに森のキャンプもありました。たくさんのキャンプに子ども達と連れて行っていただきました。

この中で4年間毎年連れて行っていただいたのが、海のキャンプでした。毎年3泊4日で気仙沼大島の海のキャンプです。海ではもちろん泳ぎます。天気くもりでちょっと冷たい海でも泳いだりはしゃいだり、イワイソメを「いや〜!」と騒ぎながら魚を狙う釣りチーム、ヤドカリやカニ、生き物をたくさんあつめて、小さな水族館をつくった磯遊びなど、海を満喫していました。

また、夜にはキャンプファイヤーをしたりとみんなで騒いで過ごします。そんな海のキャンプで私は裏方をすることもありました。食事を作ったり、物を出したり、片づけたり。子どもたちも、基本は自分のことは自分で行うのですが、朝食など裏方が行うこともあります。

総勢40名以上の人数ですので、朝食といっても薪で火を焚きますので、なかなか時間がかかります。また一人で作っているのではなかなか寂しい時間でもあります。

ところが、3日目4日目となり日中一緒に遊んだり、夜の食事時間に一緒に作ったりしているうちに、仲良くなって、朝方にこそっとテントを抜け出してきて、「なにかある?」と手伝いをしてくれる子たちがでてきます。そして、火をつけたり、管理をもらったり、運んでもらったりと一緒に朝食を作ります。みんなは寝ているので、こそっとおしゃべりしたり、笑ったり。手伝ってくれるという嬉しさやありがたさも併せて、騒いで過ごす昼や夜とはまた違う楽しい時間でした。

キャンプにはいろんなところで、いろんな時間に、いろんな楽しみが生まれます。今年はどんなところでどんな楽しみがあるのでしょうか♪

盛岡YMCAリーダーOB 末廣光揮

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～わんぱくキャンプ～

こんにちは!7月15日、7月16日に行われた、2018年度のわんぱくキャンプ。そのメインを務めさせていただきました。みんなです!今年のわんぱくキャンプは2日間晴天!!!絶好のキャンプ日和でした。最初はどこか緊張した様子。しかし、バスでキャンプソングを歌ったり、買い物をしたりしていくなかで、徐々に緊張もほぐれました。買い物ではグループのみんなで夕食のカレーの具材を買いました。それぞれのグループの色が出る買い物でした。

そして、都南つどいの森に到着。お昼ご飯を食べた後はなんと森の住民と遭遇!グループで話し合ったり協力したりして森の財宝を無事ゲットするというプログラムでした。そしていよいよカレー作りです。買い物で買った具材を使って、グループでオリジナルのカレーを作りました。火付けや具材切りなど、一から自分たちで作りました。時には苦戦することもありましたが、無事に完成!普段家で食事が出る喜びやありがたみ、誰かと楽しく話しながらとる食事の楽しさを、実感できたのではないかと思います。

ナイトプログラムでは、ナイトハイクをしました。「ちょっと怖いかも...」と少し弱音を吐いていた子も、みんなで騒いでいるうちに、怖さなどなくなり楽しんでいたようでした。そして2日目。朝のつどいではユニークなポーズでじゃんけん大会。朝ごはんを食べた後は、麺パーティーの準備。1日目同様火付けや具材切りをし、昼食の準備をしました。

1日目よりもとても上手に調理を進めることができ、子どもたちの成長を感じることができました。そのあとはフリータイムで、水遊びをしたり、虫取りをしたりと、大自然の中で楽しく遊びました。このキャンプを通して、初めての経験をしたり、新しい気持ちを抱いたり、子どもたちにとって大きな成長をすることができたと思います。そんな子供たちの成長を間近で見ることができてとてもうれしかったです。2日間ありがとうございました!

岩手県立大学3年 岡田稜平(みんなリーダー)



～前潟お泊り会のお知らせ～

ぶらいむ・たいむ前潟校では、毎年9月1週目の土日に前潟校に通う子ども達を対象として、お泊り会を行っています。今年で4回目となるお泊り会、第1回の参加者は20名に満たなかったのですが、昨年は45名の在籍中42名が参加するほどとなりました。お泊り会に参加をした子どもたちは、1年を通して、お泊り会での出来事を1年通して話題に上げているくらい、とてもいい思い出となっています。

前潟センターは、盛岡YMCAが運営する学童保育施設の中で唯一お風呂があります。日頃の学童生活の中で、楽しく遊んでいる仲間と一緒に入るお風呂はとっても楽しく入浴中お風呂から笑い声がずっと響いてきます。

また、ご飯作りや、近くの公園で花火をするなど、日常の学童生活では体験することの出来ない特別な時間が流れていきます。そういった時間の中で、高学年の子が低学年の子の面倒を見る、低学年の子が高学年の子を真似してチャレンジする姿を見ることも出来ます。学年関係なくつながりを持ち、協力し合い、成長していく一つのきっかけとなればと始まったお泊り会ですが、毎年お泊り会を経て少しだけたくましく、頼もしい子ども達へ成長していきます。昨年は、夜に子ども達による出し物大会も初めて開催し、これまでとはまた違う楽しさを見つけたようです。果たして今年はどうなお泊り会となるか、今からとても楽しみです。



盛岡YMCA前潟センター長 東森聡

～盛岡YMCAチャリティーラン2018～

「私たちは障がいのある子どもたちを応援しています」

私たち盛岡YMCAは9月23日(祝・日)に第2回となるチャリティーランを開催致します。第1回のチャリティーランには、29の企業・団体と29名の方にご協賛頂き、23のたすきリレーチーム総勢128名のランナーのご参加、103名のボランティアの皆様にご協力頂きました。また、心身に障がいのある子どもたちを対象とした全国のYMCAのプログラムを支援するために、641,915円を日本YMCA同盟に送金することができました。

盛岡YMCAでは障がいのある子どもたちも、そうでない子どもたちも、“共に幸せに生きていくことの出来る社会”を目指し、障がいのある子どもたちへの社会的な関心を高める機会となることを祈って、また、より多くの方々にチャリティーランへ参加・協賛をしていただくことで、障がいのある子どもたちのプログラムが増え、たくさん子どもたちが参加できるようになっていくなど、チャリティーランに賛同していただけるすべての方たちの思いやりを行動にし、様々な人たちにこの想いを伝えていければと願っております。違いを超えてつながることの大切さや、障がいのある子どもたちやその家族に自信と励ましを与え、そうでない方々と共に生きる社会づくりを考える機会と第2回のチャリティーランもなりますことを願いつつ、多くの皆様のご参加とご支援をお待ちしております。

第2回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2018
実行委員会担当主事 伊藤眞太郎



2018年9月23日(祝・日) 岩手県立大学 特設コース

主催: 特定非営利活動法人盛岡YMCA
主管: 第2回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2018実行委員会
共催: もりおかワイズメンズクラブ
全国後援: 内閣府、厚生労働省、(福) 全国社会福祉協議会
参加費: 1人500円

～盛岡YMCAチャリティーバザー～



盛岡YMCAでは、今年も向中野センターを会場にチャリティーバザーを開催します。開催日は9月30日(日)となっており、当日は、バザーコーナーはもちろんの事、軽食や飲み物の販売コーナー、ゲームコーナー等を用意し沢山の方の来場をお待ちしています。掘り出し物がないか、また、小さいお子様やおじいちゃんおばあちゃんと一緒に家族で遊びに、とりあえず見に行ってみよう等、どの様な目的でも構いませんので、是非ご来場下さい。

また、バザーコーナーで販売する提供品の募集も行いますので、皆さんのお宅でご提供いただけるものがございましたら是非ご協力をお願いします。今回のチャリティーバザーでの益金は、2016年4月に発生した熊本地震被災支援募金として、主に以下の使途に充てさせていただきます。

- ①被災コミュニティの緊急支援(被災地域支援、地域住民の生活支援、益城町・御船町地域支え合いセンター支援など)
- ②被災地の復興支援—熊本YMCAの活動を通して(市民の心身の健康を支える活動復興を担うリーダーシップの育成など)

チャリティーバザーを通して、来場された皆さんが楽しく過ごせる時間となる事、そして、その様な時間の中で生まれた益金が、熊本で困難におかれている方々にとっての支えとなる事を願い、今年も開催に向けて準備を行っています。

チャリティーバザーについて、提供品について等、ご不明な点等ございましたら、いつでも小川(090-4884-6112)までご連絡下さい。

盛岡YMCA向中野センター長 小川嘉文

君でいいんだよ ～ JUST THE WAY “YOU” ARE ④～

「メジャー7th(セブンス)」

厳しい暑さが続いているが、僕の頭頂部は涼しいばかりだ!!
あの頃の反動だろうか? あの頃。そう中学時代の僕は校則に反発して長髪、カラーシャツで登校していい気になっていた。当時は、髪を伸ばしてギターをジャカジャカかき鳴らしているだけでそこそこ女の子にモテた。平凡な男の子にとってはつかの間の夢のような時代であったのだ。勉強もスポーツもそんなにできるわけでもなく、ルックスもパツとしない僕は『長髪とギター』に勝負をかけたのである。

ところが、多くの人がそうであるようにFのコードで挫折した。人差し指で全ての弦を押さえながら中指、薬指、小指で他の弦を押さえなければならない。ちゃんと押さえなければ「シャリーン」と澄み切った金属音を出すフォークギターの音色がポコポコとまるで太鼓の音のようになってしまう。これでは興ざめだ。かくして僕の大切な青春は、ただ、ただ髪が長いだけで終わってしまったのだ。

音楽理論はちんぷんかんぷんだが、メジャー7thというコードがあるらしい。NHKの番組「亀田音楽専門学校」で紹介されていた。なんでも、「メジャー7thは、きっぱりとした3つの和音にひとつ毛色の変った音加わることによってさまざまな切な

さ、痛み、さわやかな感じ、シティ感など大人になっていくうちに経験していくような表情をコード自体が提案してくれる」そうだ。ポップの世界では山下達郎、荒井由実、オフコースなどが積極的にこのコードを使い新たな世界を開拓していったという。

今はキャンプの真っ最中だ。一つのテントの中には様々な個性のぶつかり合いがある。ここで子どもたちは多くのことを学んでいくことだろう。一方、僕たち大人は自分にとって都合のよい人たちの中ばかりで生きていこうとしているのではないだろうか? 都合の悪い音はあえて無視することによって、耳障りのいい音の環境を自分の周りに作っていかうとする。

本当は、自分の世界にない音をひとつ加えることによって新たな発見と創造が生まれてくるはずなのに。

「イザヤの預言は、彼らによって実現した。あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない」

新約聖書 マタイによる福音書 13章14節

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

日本でメンバーも考えた①

今回から新シリーズ「日本でメンバーも考えた」の連載が始まります。

マレーシアからの留学生メンバーリーダーの目には日本はどう映っているのでしょうか?

盛岡YMCAで学生ボランティアリーダーを始めたのは2年前だった! 今、YMCAのいろいろな活動に参加をして、どの活動も魅力的でまだまだ盛岡YMCAにずっといたい気分のメンバーです。

生まれてから19年間に渡り、普通に家族と暮らして平凡な日々を送っていた自分は海外へ行くなんて一つも考えていなかったが、二年前によく日本に来たなど。何で地元の大学に進学するという選択肢があるのに、わざわざ数千キロメートルも離れたところに来たのか、自分に問いかけた。

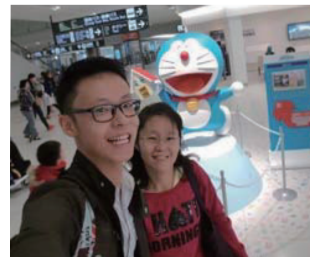
高校時代、日本人高校生の学校訪問があり、その時は全く日本語が分からず、何を話しているのかは当然一つも分からなかった。だけど、みんなの優しい心を感じ、みんなは英語があんまり話せないのを覚悟した上で、それでも言いたいことを伝えようと必死に表現し、自分の得意ではない分野へのチャレンジ精神を持っており、彼らに対して心から敬意を持ち感心した。もちろん会話も楽しめた

かったので、当時自分自身が日本語を分かっていたら、今みたいに日本人高校生たちと話せたなどという悔やみは少しあったけど。

彼らのお陰で日本に留学することを決めたが、正直一度も日本に来たことのない自分は、一体どんなところだろうと不安を抱えながら飛行機で7時間もかけて日本にやってきた。

到着後、空港内で初めて目に映ったのは日本語で表記してある周りの看板と等身大のドラえもんフィギュアだった。その時は目に入った光景を疑い始め、「ここが日本なの!?!」と感動の声を上げ、興奮や喜びが湧き出すほど、わくわくが止まらなかった。その後、ホテルに移動する道中も、道沿いの風景に興味津々でずっとバスの窓の外を眺めていた。半日もかけて移動したせいで、母と私の体力も限界に近づき、お腹もペコペコになって、近くのコンビニでパンを買おうとコンビニに入ったら...(つづく)

岩手大学3年 オンホーイン
(メンバーリーダー)



感謝

(2018年度7月27日現在) 敬称略

●維持会員

熊谷大樹、工藤直子、今松桂子、熊谷太、吉崎陽、水田賢次、大関靖二、阿部深雪、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、名古屋恒彦、名古屋理恵、植田一茂、二戸貞文、高橋友恵、熊谷力真、尾形裕一郎、伊藤信彦、田村治之、川坂保宏、澤田優実、北田仁則、北田アユ子、古澤伸、武田理恵子、鶴丹谷三千代、高橋廉翔、人見晃弘、菊地弘生、重石桂司、高瀬稔彦、千田沙里、工藤悦子、家村知佳、滝川佐波子、小笠原邦夫、遠藤昌樹、清水治彦、上中優奈、今野聖子、今野健男、林辰也、森山日菜乃、森山幹大、佐藤隼人、工藤あさひ、工藤誠太、佐藤洋一、中島敬泰、小野寺大介、魚住恵、神田橋慧一、山口貴伸、濱塚有史、濱塚真美、高橋奈菜

●寄附金

今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、濱塚秋二、濱塚れい子、増田隆、高橋友恵、熊谷力真、伊藤信彦、

表紙の写真から



「だーるまさんが転んだ!!」瞬間です。YMCAの野外活動に初めて参加したKくん。親戚でもない、学校の先生でもない、近所の人でもない、不思議な大人?のリーダーたちが子どもたちと一緒にあって、我を忘れて遊んでいる姿は、Kくんの目にはどう映っていたのだろうか?